東北発！

プラン・ジャパン　子どもマガジン

Children's Magazine made by Plan Japan's Child Media Project

Go ahead ～前進～





「絆」

光純　小学校６年　宮城県石巻市

"Bonds"　Kōjun, 6th grade, Miyagi



「スクールバスの笑顔」

諒　小学校６年　宮城県女川町

"Smiling girl in our school bus"　Ryō, 6th grade, Miyagi

「福島県の未来を見つめて行動していきたいです」

葉翔奈　高校２年　福島県郡山市

"Eyes on the future of Fukushima"　Wakana, 11th grade, Fukushima



子どもたちの

声・写真・映像



「光に向かって咲くひまわり」

開生　小学校６年　宮城県女川町

"A sunflower looking up the sun" Kaisei, 6th grade, Miyagi

About the Children's Magazine

子どもマガジン「Go ahead～前進～」はこうして生まれました

世界50カ国で、貧困の中に暮らす子どもたちを支援する国際NGOのプラン・ジャパン。子どもの声を災害からの復興や社会改善に取り入れるため、プランはこれまで、地震や津波の被害を受けたインドやハイチのほか、30カ国以上で「子どもメディア・プロジェクト」を実施してきました。子どもたちは、自分たちで作る新聞や写真などで「声」を発信する作業を通じて、大きく成長していきます。東日本大震災後、プラン・ジャパンも「子どもメディア・プロジェクト」を被災地の子どもたちと一緒に始めました。その中で生まれた作品を集めたものがこの「Go ahead～前進～」です。

To create a place where children's voices can be heard in the recovery from disasters and community development, Plan has implemented the "Child Media Project" in over 30 countries, including India and Haiti, that experienced earthquakes and tsunami. This magazine is a collection of works that were born out of the "Child Media Project" carried out by Plan Japan after the Great East Japan Earthquake.

VOICE 子どもたちの声

震災から半年たった2011年9月頃、独自に被災者支援に動き出す学校や、変化した価値観や物の見方に気づく子どもたちがいました。そうした一面を紹介してほしいと呼びかけたところ、多くの投稿がありました。ここに掲載できたのはほんの一部ですが、子どもたちの届けたい「声」があふれています。



仙台市立虹の丘小学校　新聞委員会
Nijino-oka Elementary School, Miyagi

Six months from the earthquake, there were schools that had initiated their own support activities and there were children who became aware that their values and ways of looking at things were changing. Many stories introducing such actions and children's changing awareness were contributed.

PHOTO 子どもたちによる写真

2011年7月から8月にかけて、石巻市立開北小学校と女川町立女川第二小学校の皆さんは「生まれた絆」「復興の芽」「将来の夢」をテーマに写真を撮影。プロのカメラマンから指導を受けながら、今しか撮れない風景や、自分しか撮れない友人の表情など、多くの作品が生まれました。



石巻市立開北小学校　福祉委員会
Kaihoku Elementary School, Miyagi

Some students in grades 5 and 6 at elementary schools in Ishinomaki and Onagawa, under the guidance of a photographer, compiled photos of scenes and expressions of friends that could only be captured right then.

MOVIE 子どもたちによる映像

七ヶ浜町立七ヶ浜中学校の生徒会執行部の皆さんは、いつもより短い2011年の夏休み、専門家の指導のもと映像製作ワークショップに参加しました。そこでの話し合いと町での取材を通して震災の経験をふり返り、自分たちが考える今後の災害対策の課題を映像に記録しました。



七ヶ浜中学校　生徒会　執行部
Shichigahama Junior High School, Miyagi

The student council of Shichigahama Junior High School participated in a video workshop. Reflecting back on their recent experiences, they recorded on video what they thought would be issues for the future

VOICE 子どもたちの声

**約500人の子どもたちの声が凝縮された投稿です。
地域の紹介や、自分たち自身の取り組みを紹介する記事のほか、
理想の町「ゆめタウン」を絵で表現する作品が寄せられました。**

This is a project called VOICE that involves almost 500 kids. It includes the introduction of their regions and their own initiatives, as well as pictures which they have drawn of their Dream Town.



（写真提供：七ヶ浜国際村）

「Go ahead～前進～」

私は七ヶ浜町でミュージカルをやっています。11月、東日本大震災をテーマとしたミュージカルが上演されました。この舞台は震災で亡くなった人が姿形は違うけれど、「いつもそばにいるよ、悲しまないで」と残された人たちに語りかける内容です。台本には私の亡くなった友人についても書かれていました。まさかミュージカルで自分の友人の名前が出てくるとは思っていなかったので、最初はとても驚きました。練習をしていくうちに本当にその友人が私たちに「悲しまないで」と言っているように思えてきて、練習中にもかかわらず涙を流してしまうこともありました。ですが、この舞台が教えてくれたのは、いつまでも悲しんでいてはいけない、前を向いて歩いて行かなくてはいけないということです。亡くなった友人の分まで精一杯生きようと思いました。私はこの舞台に出演することができてとてもうれしく誇りに思っています。もっとたくさんの方々にこの作品を見ていただいてこの震災から立ち直ってほしいし、忘れないでほしいと思います。そしてこれからもミュージカルを続けて多くの人に元気や感動を与えられるようがんばりたいと思います。

那末　中学2年　宮城県七ヶ浜町



I am a part of a music production in Shichigahama town. Last November, a musical based on the March 11 disasters was performed here. It is about people who died in the disaster communicating with those who are left. The script also mentioned my friend who died in the tsunami. As we were rehearsing, I started to feel like my friend was actually speaking to me "I'm always by your side" and I sometimes cried. What this production has taught me is that you have to move on one day. I now feel that I have to live my life as fully as I can for my friend.

Nami , 8th grade, Miyagi

「Go ahead ～前進～」というこのマガジンのタイトルは、上記の投稿から引用したものです。

The title, "Go ahead" is quoted from the article above.

「友友傘」 Friends under the umbrella

私たちが理想と考える「ゆめタウン」は、相合傘ならぬ「友友傘」です。一つの屋根（傘）の下でみんなつながっていることを表したいと考えました。ここには、人種・差別・宗教など関係なく誰でもくることができますが、てっぽうのような危険な物を持っては入れません。そのおかげで、戦争はなく平和が保たれています。私たちは、この「友友傘」のような町が増え、世界がうめつくされればいいなと思っています。

真純、由佳、祈里　高校1年　宮城県仙台市



Our Dream town is "Friends under the umbrella" , which resembles a couple sharing an umbrella. Under one roof (umbrella) everyone is bonded. Here there is no discrimination and everyone is welcome except for those that bring with them weapons that can start wars. We hope that these peaceful towns will fill the world.

Masumi, Yuka, Inori , 10th grade, Miyagi



「新年を前に…」

Waiting for the new year

近所の八百屋さんには、しめ縄やおせち料理に使われる食材が並べられていました。それを見て、もうすぐ年が暮れ新年を迎えるのだと、感慨深く思いました。今回の地震で、「あたり前」に生活することは「あたり前ではない」ということを学びました。そんな「あたり前ではない」生活ができることに感謝しつつ、この生活が続いてほしいと切実に願っています。

春花　高校1年　福島県郡山市

The store fronts of the neighborhood shops were lined with special foods for the New Year celebrations. Seeing that made me realize at a deep level that the old year would soon pass and a new year would be upon us. The earthquake taught me that our normal everyday lives should not be taken for granted. While being thankful for being able to live in "extraordinary circumstances," I truly wish that our ordinary lives can continue.

Haruka , 10th grade, Fukushima



私たちのかざりがアーケードに吊るされました

VOICE

子どもたちの声

「七夕祭り」 Star Festival

私の住んでいる町、仙台には、七夕祭りというお祭りがあります。七夕祭りの由来は、ひこ星とおり姫がいつも仕事をしないで遊んでばかりで、おり姫のお父さんがおこってしまって、二人ははなればなれにされてしまいました。それなので、二人は年に一度だけ天の川で会うことができるのです。仙台の七夕祭りは毎年８月６日、７日、８日にやっています。七夕祭りには、七夕かざりがたくさんあります。ふき流し、つる、ちょうちん、とあみ、たんざくなどです。たんざくは、願いごとを書いて竹につるしたら、願いがかなうというかざりです。今年は東日本大震災があり、仙台の小学生・中学生全員で鶴を折りました。私たちの小学校でも１年生から６年生までの全員が鶴をおりました。仙台市の全員合わせると八万羽になったそうです。みんなで力をあわせて作った鶴は、先生たちやお母さんたちのおかげで一つのかざりになりました。みんなで力を合わせて作った七夕の飾りで、仙台の町をこれからも明るくしていきたいと思います。

晏佳　小学校５年　宮城県仙台市

In my town, there is “Star Festival” every August. The festival is derived from a father who was angered by Hikoboshi (Altair) and Orihime (Vega) who spent all their days playing and not working. The father separated the two, and this was the only day of the year when they were allowed to reunite in the Milky Way. During the Star Festival, there are many decorations. This year the students of elementary and junior high schools all made paper cranes which totaled 80 thousand. With the Star Festival decorations we created together, we want to continue to make the town Sendai a bright place.

Haruka, 5th grade, Miyagi

「山田中学校の訪問を通して」

Visit to the Yamada Junior High School

僕たちの中学校では津波被害を受けた山田中学校に支援物資を送ったほか、バスケットボール部やソフトボール部など、いくつかの部が５月22日に山田中学校に出向き、部活ができない生徒たちと部活交流をしてきました。その時の心境を１人の生徒はこう話しました。「みんな、住んでいる町が変わってしまって悲しいはずなのに笑顔でがんばっていてすごいと思った」・・・そうです。本当にその通りだと思いました。自分たちが知っている場所や友だちや家族との思い出の町が一日にして消えてしまうのは想像できないほどショックなことだと思います。しかしあの日、山田中学校の生徒は笑顔で、元気のいい挨拶で迎えてくれました。山田中学校と私たちのつながった心が、この先切れることはないでしょう。

岩手県盛岡市立北陵中学校　生徒会



部活交流の様子

Our junior high school sent support goods to Yamada Junior High School which was struck by the tsunami and some of our extra-curricular activity clubs such as the basketball club and softball club visited the school and held club exchanges with students who were not able to take part in extracurricular activities. We think it must have been quite a shock to have the town where all their memories lay, just disappear in one day. But on that day, the students at Yamada Junior High greeted us with smiles. The bonds that we formed that day will never break.

Student council of Hokuryō Junior High School, Iwate

「私の人生の原点」

Foundation of my life



炊き出しの様子

私は10年以上にわたり、「ホームレス」の方々を支援する炊き出しに参加してきました。3月11日、今までにない激しいゆれを経験し、食料やライフラインを断たれた私は初めて「一日を生きる」ことに不安を感じました。そんな思いをかかえながら、震災３日後からは被災者支援の炊き出しに参加しました。余震は続き、ボランティアもみんな被災者。ホームレスの方もボランティアにかけつけてくれました。物資がなくなりそうになる度に、日本だけでなく海外からも支援物資が届き、物資が底をつくことはありませんでした。雪の降る激しい寒さの中、連日200人以上の方が炊き出しの列に並びました。

私にとって３月の震災は、心が折れてしまうようなつらい体験でもありました。と同時に、人と人が支えあって生きることの大切さ、今あるものを独り占めするのではなく、多くの人と分かち合うことのうれしさ、世界中の人の善意とボランティアに支えられた日々の感動、そうしたあの日々の経験一つ一つが、これからも継続していく私のホームレス支援、そして人生の原点になっていくことと思います。

杏子　高校２年　宮城県仙台市

I have been active in supporting homeless people for over 10 years, participating in distributing hot food. 3 days after the Great East Japan Earthquake I took part in distribution of hot food to the survivors of the disaster even while I felt a little apprehensive due to the events of the disaster. Homeless people also came to provide volunteer services. Each time we began to run short of supplies, support was received from both Japan and from overseas, ensuring that we never ran out. For me the disaster in March was also the most heart wrenching experience. At the same time, I was deeply struck with the importance of people living each day supporting one another, the joy of sharing what they have with each other and the daily emotional lift of being supported by the goodwill of people around the world. I think that these experiences will form the foundation of my life going forward.

Kyōko, 11th grade, Miyagi

「二小っ子ファイターズ誕生」

YOSAKOI Festival

私たちの小学校は郡山市にあるので、放射能の影響を受けないようにと、屋外での活動が制限されてしまいました。そこで、屋内でできる「よさこい」の踊りに挑戦することになり、よさこいチーム「ドラゴンキッズ風」代表の大竹さんにご指導をしていただきました。踊りを覚えるととても楽しくなり、休み時間にも自主練習をしました。「二小っ子ファイターズ」というチーム名をみんなで決め、９月25日、郡山市の「うつくしまYOSAKOIまつり」に出場しました。県内外からたくさんのチームが出場し、みんな上手で迫力がありました。私たちも、会場や路上パレードで、他のチームに負けない元気な踊りを披露することができました。よさこいを通して、みんなとのチームワーク、絆をいっそう強めることができました。

元喜、裕貴、航、涼　小学校６年　福島県郡山市

Due to the effects of radiation, our school is not allowed to conduct outdoor activities. So we took up the challenge to have dance activities indoors. Together we thought up the name of the team and participated in the “YOSAKOI Festival” on September 25th. Many teams participated and we were able to demonstrate our energetic dances. Through YOSAKOI we were able to strengthen teamwork and bonding even further with all the people.

Motoki, Yūki, Wataru, Ryō, 6th grade, Fukushima



よさこいの踊り

VOICE



「杜の都」 City of Trees

私たちの街、仙台も、戦前と比較すると大分緑が減ったように思えます。近代化が進むにつれてより便利で派手やかになるとともに、消えていく草花の影。草花が増え、木々が植えられれば、もっと動物たちも顔を見せてくれるかもしれません。私たちが便利さ、安全の代わりに失ったものは何でしょうか。自然の力は私たちの心に癒しをくれるものだと思います。それらは人々の笑顔を、幸せを呼ぶ。実際はそんな簡単なことではないけれど、そこから始めて素敵な街、仙台に本当の「杜の都」になってほしいです。

京子　高校２年　宮城県仙台市

It seems a lot of green disappeared also in Sendai. In the shadow of modernization and increased convenience and flashiness lie the grass and flowers. What was the price we paid for convenience and safety? The powers of nature calm our hearts and soothe our minds. That brings people smiles and happiness.

Kyōko, 11th grade, Miyagi

VOICE 子どもたちの声

「力を合わせた光のページェント」

Starlight Pageant

仙台光のページェントは、仙台市中心部の定禅寺通りと青葉通りのケヤキの木に46万個のLED電球を取り付けて点灯するイルミネーションイベントです。2011年は、12月2日から12月31日まで開催されました。去年まで使っていた電球55万個が東日本大震災の津波で流れて使えなくなり、開催が危ぶまれましたが、支援のうったえに例年より多くの個人や企業がお金をだしあってくれました。このようなイベントをやっている東京の表参道や、秋田県大館市などの団体が電球を貸してくれて、また仙台光のページェントを開催することができ、仙台の希望の光がともりました。2011年は一つだけピンク色の電球があったそうです。みなさんは見つけられましたか？　私は残念ながら見つけられませんでした。来年もみんなが力を合わせ、すてきな光のページェントが見られるといいです。　　優希　小学校５年　宮城県仙台市

Sendai Starlight Pageant is an illumination event with 460 thousand LED lights decorated on zelkova trees in central Sendai. The lights that had been used until last year were all washed away by the tsunami and many feared that the event would not be able to be held. However, many donations were received and LED lights were lent by other cities and the light of hope was lit up in Sendai. In 2011 there was said to be one pink light bulb among all the bulbs. Did any one of you see it? I, unfortunately, was not able to find it.

Yūki, 5th grade, Miyagi



仙台光のページェント

本を選ぶ子どもたち





「私たちの復興プロジェクト」

What we can do for the recovery

３月11日、私たちが地震におびえていたころ、沿岸の人たちは異常な津波の「高さ」、「速さ」、「威力」におびえていました。沿岸の様子をテレビや新聞などで見て、なにかできることはないかと思い、被災した小学校のうちのひとつ、東六郷小学校に本を送るプロジェクトを実行しようと考えました。読み聞かせボランティアや図書館の方に本をおすすめしてもらい、送る本を約120冊選びました。そして夏になり、てっぺん祭りが行われました。祭りではブラスバンドの人たちがチャリティコンサートを行い、本を買うお金を集めました。次は買った本をどうやって送るかが問題でした。ラオスに本を送った経験を持つ大学生から本の送り方を教えていただき、候補に本棚、本箱、本袋の３つが出ました。そして、東六郷小学校の教頭先生にどれがいいか聞き、本箱に決まりました。私たちは今でも活動を続けています。そして、大人になれば復興の最先端に立つことにもなります。その時にはこの経験をいかし、困っている人や苦しんでいる人がいたら手を差し伸べられる人になりたいです。

菜々生、美友、柚香、美玖　小学校５年、
宮城県仙台市

Watching the destruction of the coast on TV and through the newspapers and thinking about what we can do to help, we decided to carry out a project of sending books to one of the elementary schools struck by the disaster. We selected about 120 books recommended by book-reader volunteers and librarians. In the summer, students in the brass band held a charity concert to collect money to buy the books. We continue to be active even now. When we become adults and are leading the recovery, I want to become a person who is able to extend a helping hand to those in need.

Nanami, Miyu, Yūka, Miku　5th grade, Miyagi



コンサートのポスター

Voice from the class teacher 先生の声

仙台市立吉成小学校　柴田和歌子先生

Ms.Shibata, Teacher of Yoshinari Elementary School, Miyagi

東六郷小学校に送る本を選ぶ際、はじめはマンガのタイトルばかりが挙がりましたが、おすすめするからには「自分でまずたくさんの本の世界を知らなければ」と、子どもたちは今まで読んだことのない本にもチャレンジしました。はじめは「死」や「海」など、震災を思い起こすような本はないほうがいいと思い込んでいた子どもたちでしたが、自分が自信を持っておもしろいとすすめられる本を入れようと、人間の死に向き合う小学生を描いた「夏の庭」も選びました。こうして１年生から６年生まで様々な考え方で本のリストが集まったのです。本の送り方についても、震災でたくさんの服が寄付されたけれどサイズが合わなかったりして残ってしまった話を聞き、相手の現状から聞いてみることが大事だと気づき、代表児童が手紙を書いて本箱に決まりました。私たちの手でできることは限られているけれども、クラスで、学校で、地域で、そして様々な支援団体と「つながりあう」ことでこのプロジェクトが進んでいきました。小さな力でも助け合えば大きな力になることを、子どもたちには学んでいってほしいと思います。

When the children were selecting the books , many cartoon titles came up but with the thought that if they are recommending books, they should come to know a broader world of books themselves, they decided to take on the challenge of reading books that they had not read before. First, the children thought that they should avoid books that may remind the students of “death” or “oceans” but they decided to choose the best books they think worth reading. What we can do on our own is quite limited but I would like the children to learn that even if each individual is small, if we get together and help each other, we can become a big force.

VOICE

PHOTO 子どもたちの写真

石巻市立開北小学校の５年生、６年生と
女川町立女川第二小学校の６年生、56人がカメラマンになって、
がんばる地域の「復興」と「絆」を探して撮りました。

56 students (grade 5th and 6th) from Kaihoku Elementary School (in Ishinomaki) and Onagawa Dai-Ni Elementary School took their cameras and sought to shoot photos of “recovery” and “bonding” in the areas that are trying to get back on their feet.



健矢 Kenya



柚希 Yuzuki



三奈 Mina



仁 Hitoshi



憲太 Kenta



杏奈 Anna



一輝 Kazuki

崇人 Takato





心 Kokoro



彪 Hyō

広夢 Hiromu





まりな Marina



遥 Haruka



みく Miku



凛 Rin



樹 Itsuki



瑠花 Ruka



佐那 Sana

沙季 Saki



子どもたちの写真 × Canon

8〜11ページの写真はキヤノン株式会社から30台のカメラをお借りして実現しました。子どもたちは1人1台のカメラを手に、思い切り撮影に挑むことができました。
この場を借りて心よりお礼申し上げます。

写真の撮り方を教えてくれた人

伊藤トオルさん カメラマン 宮城県仙台市
Mr.Tōru Itō, Photographer



教室を訪れた日、デジカメを手にし、目をキラキラさせながら撮影し始めた子どもたちの姿がとても印象的でした。初めはふざけあって友だちと撮りっこしたり、「かわいい〜」と言いあいながら１年生の写真を撮ったり。その後も、自衛隊員やボランティアの方々、家族やペット、地域の写真などいろんなものにレンズを向けていました。写真はコミュニケーションの道具。人と向かいあって撮影する時には会話がかわされ、笑顔が生まれたりします。もちろんペットや風景と向かい合っても会話はおこなわれます。それは自分自身との会話だったりもします。今回いい写真がいっぱいありました。きっと、たくさんの会話があったはずですね。

On the first day of the workshop, I was impressed with the children’s lit up eyes, as they took their digital cameras in hand. Photographs are communication tools and when taking photos, there are conversations and smiles. Even when facing scenery or pets, there is conversation and sometimes it is a conversation with oneself. There must have been many conversations in this experience.



PHOTO

子どもたちの写真



柊介 Shūsuke



薫 Kaoru



大輝 Daiki

光純 Kōjun



龍杜 Ryūto

経悠 Tsunehisa

龍武 Ryūmu



丈虎 Taketora



優仁 Yuhito



謙介 Kensuke



幸之介 Kōnosuke



海斗 Kaito



留唯 Rui



力也 Rikiya



龍也 Tatsuya



晴輝 Haruki



直弥 Naoya



長司 Hisashi



岳 Gaku



晴人 Haruto

Voice from the teacher 先生の声



石巻市立開北小学校
横江良伸先生

Mr.Yokoe, Teacher of Kaihoku Elementary School, Miyagi

このプロジェクトのことを聞いた時、体育館は避難所でしたし、津波で被害を受けた近くの学校と校舎を分け合う中、参加すべきか迷いました。しかし、子どもたちは支援を受けるばかりでなく、復興に向かう姿を写真で発信することで、支援する側に立つことができると考えました。そしてその夏、子どもたちはデジカメを持ち歩き、校内でもあちこちでシャッターを押していました。カメラのファインダー越しに身の回りの日常や家族・友人をふり返り、見る目を新たにすることができたのではないかと思います。

I thought that it was important for the children not to be on the receiving end of support, but to be standing on the side of providing support through this child media project. This is why we joined the project. Reflecting back on family, friends and everyday life as seen through the camera finder, I think, gave the children a fresh view of life.

ケニアのお友だち、ケファくん

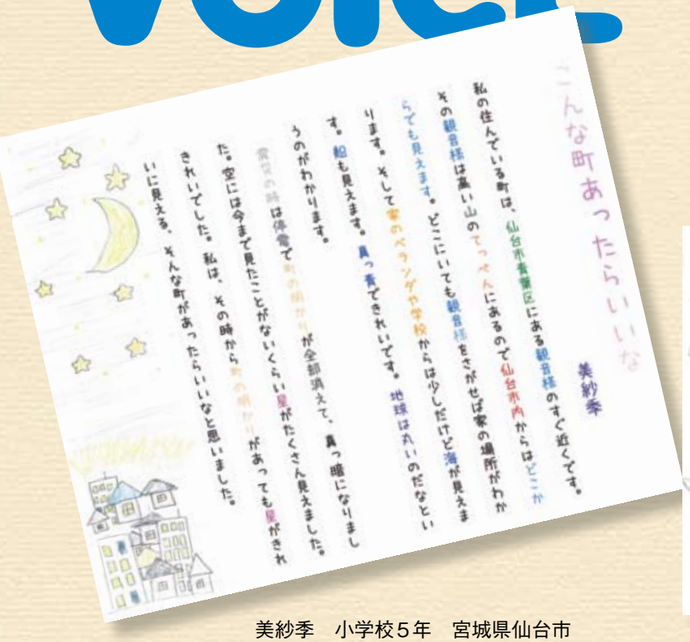
開北小学校は震災前からプラン・ジャパンを通じて途上国の子どもたちを支援してきました。福祉委員会がアルミ缶回収で集めたお金を寄付しながら、ケニアの男の子、ケファくんと交流しています。震災後、「いつも私は皆さんと一緒にいます」と書かれた手紙がケファくんから届くと、福祉委員会のみんなはその返事に「心配してくれてありがとう」、「あたり前の生活が大切だと気づきました」、「ケニアもがんばってください」などのメッセージを送りました。

Kaihoku Elementary School had been a sponsor of Plan Japan even before the earthquake. Contributing the money collected by recycling aluminum cans, sponsored by the Welfare Committee, they were in contact with Kefa, a boy from Kenya. After the earthquake, when the children received a letter from Kefa saying, “I will always be with you,” the children sent back a message of appreciation.



VOICE 子どもたちの声

ゆめタウン
Our Dream Town



美紗季　小学校５年　宮城県仙台市

I live near a Buddha statue in Sendai. The statue is on the top of a hill and can be seen from anywhere in the city. I can see a small patch of ocean and ships going by from my balcony. When I look at the sea, I can tell the earth is a globe. After the March 11 earthquake, the city lost the power and went dark. I've never seen so many stars. It was so beautiful. Now I often wish there was a town where people can see many stars, even with the lights in the city.　　Misaki, 5th grade, Miyagi



今の世界は、貧困、災害で苦しんでいる人々がたくさんいます。私たちが考える世界で一番強調したいのが「平和な世界」です。この絵は、世界の距離が近く、みんなの仲が良く、笑顔でいられるような街。そして森や海などの自然にあふれ、自給自足の生活ができ、老人ホームなどの施設や遊べる設備もきちんとしている、みんなが笑顔で幸せでいられる明るいゆめタウンを表現しました。

文菜美、唯、茉緒、真由子　高校３年　宮城県仙台市

In today's world, many suffer from poverty and disasters. What we want to highlight in the ideal world is peace. I wanted to express a town where everyone is able to live in harmony, where nature overflows in the form of forests and oceans and where people are able to be self-sufficient and there are facilities such as seniors' homes and places to play and where smiles come free and easy.

Monami, Yui, Mao, Mayuko, 12th grade, Miyagi



莉子、杏、声和　小学校５年　宮城県仙台市

Let us care for the earth, friends and our limited resources. The world is our friend from the time we were born.

Riko, Anzu, Kotowa, 5th grade, Miyagi

新聞委員会で取り組みました



5〜6年生の15人で構成される仙台市立虹の丘小学校、新聞委員会の子どもたちは、プラン・ジャパンが子どもたちの投稿を募集していると聞くと、すぐに参加を決めました。全国から寄せられた応援に元気なメッセージで応えたいと考えたそうです。世界から戦争をなくしたいと考える杏さん（5年）は、「私はケンカしそうな時、自分の悪いところも思い起こすようにします」と、「仲間」をキーワードにした絵を描きました。

Children in the Newspaper Committee at the Sendai Municipal Nijino-oka Elementary School decided to join the "Children's Magazine" project as soon as they heard about it. They wanted to send an energetic message to respond to all the support they received from across the country.



仮設住宅側から見た応援メッセージ

私たちの取り組み
Our Action

中学校の敷地内に仮設住宅が建てられました。そこには震災で家を失った人たちが暮らしています。仮設住宅の人々に応援のメッセージを送りたいという声があがり、北校舎の2階と3階の窓、ちょうど仮設住宅から見える位置にポスターを貼ることに決まりました。3学年委員にも協力を仰ぎ、ていねいに仕上げました。できあがった言葉は「輝く笑顔の花を咲かせよう」と「上を向いて歩こう」の2つ。これからも私たちは、助け合い、はげましあって生活していこうと改めて思いました。

多賀城中学校生徒会　宮城県多賀城市

Temporary housing has been built on the school grounds and people who lost their houses in the earthquake are trying to make their lives there. We decided to paste a poster on a school window positioned just where it can be seen from the temporary housing and send them a message. We made 2 messages: "Let's make bloom the flowers of bright smiling faces" and "Walk tall looking upwards." We thought these messages would help to cheer them up.

Student council of Tagajō Junior High School, Miyagi

横断幕を手に「クリーン活動」



私たちは今、仮設校舎で生活しています。その前は近くの小学校の校舎に間借りしていました。そんな中でもずっと続けてきた活動があります。JRC（青少年赤十字）委員会が毎月行う「クリーン活動」と「一円玉募金」です。「クリーン活動」とは、登校時のゴミ拾いです。花壇の整備はもちろん、秋には落ち葉拾い、冬には雪かきもします。「一円玉募金」では１年間に平均約１万円が集まります。実施当日にはたくさんの生徒が自主的に参加しています。私たちは東日本大震災で被災し、世界中の方々から支援をいただきました。これからは小さいことからでも恩返しができればいいと思っています。

仙台市立南光台東中学校　JRC委員会

At the JRC Committee, we have been undertaking community cleanup activities. Picking up trash on the way to school, taking care of the flower beds, in the fall picking up fallen leaves and in the winter, snow shoveling. Through another activity, "1 Yen donations," an average of roughly ¥10,000 a year is collected. We have received help from people all across the world. It is our hope that we will be able to return the favor no matter how small it may be.　　Nankōdai Higashi Junior High School, Miyagi

千葉県の子どもたちが避難所を体験



教室を段ボールで区切りました

被災された人々の気持に少しでも近づくため、避難所体験をしました。始めは冗談を言ったり笑ったりしていました。２時間目もまだ笑っている人がいました。でも３時間目はみんな無口になっていきました。お昼にはサバイバルフーズを食べました。ワクワクしましたが、味が無いクッキーのようでした。やっと５時間目になりました。被災した人たちは、これが３ヶ月以上も続いていると思うと気が遠くなりそうでした。この体験をしたことで、みんなの思いの入れ方が変わったんだと思います。今の私たちは本物です。本物の思いと心で被災した人々を思っています。

舞　小学校５年　千葉県市川市

In order to come even a little closer to understanding what the people affected by the earthquake were feeling, we had a simulated experience of life at an evacuation center. At first, we all joked and laughed and started out quite joyfully. But by the third period all became quiet. At lunch, instead of the regular school lunch, we ate survival rations. They were tasteless like a dried out cookie. It was a long day. When we thought that this is the life which the survivors had to endure for over 3 months, it was mind-boggling. This experience changed the way my classmates approached things. We are now much more serious, thinking about the best for the affected people.　　Mai, 5th grade, Chiba

子どもたちの声

ふくしま便り
Photo essay from Fukushima



小学生のころ、よく遊びに行った駄菓子屋です。まわりの景色は変わっていったが、この小さな店は30年変わっていないそうです。めまぐるしく変化する世の中、せわしなく進む大人。その中に、ゆっくり時を刻むモノがあってもいいじゃないか。そう思って撮った一枚です。子どもたちへ。今を満喫しながらゆっくりススンでみてください。大人たちへ。たまに後ろをふり返ってみてください。昔を懐かしんでみてください。子どもだったアナタは笑っていますか？　春花　高校１年

This is the candy store that I used to go often when I was in primary school. Although the landscape surrounding it has changed, this little shop has not changed itself at all. I thought to myself that 'Some things in the world change dramatically but some do so slowly' and took this photo.　Haruka, 10th grade, Fukushima



仮設校舎の黒板の上。数学の微分に入ったころには、もう肌寒い季節となり、仮設校舎の断熱だけでは厳しい季節に・・・。そんな時の学校の事務長の「暖房つけてもOKコール」には不覚にも涙がにじみました。あたたかい教室で笑顔のこぼれる授業は、仮設のつらさなんて感じさせません。　奈々恵　高校２年

This is a blackboard of our provisional school house. Now it's already too cold to sit in this classroom without heating. When the permission was given by the school to turn the heaters on, I shed tears in spite of myself. There is no hardship of dealing with temporary facilities in a warm classroom spilling over with smiles.　Nanae, 11th grade, Fukushima

震度６強の地震でも、柿の木はしっかり立っています。でも、今年は柿の実をとって食べる人は誰もいません。　美優　高校１年

This persimmon tree is still standing after the earthquake. But nobody is going to eat the persimmon from this tree this year.
Miyū, 10th grade, Fukushima





会津の大内宿にある店には震災以降も多くの人が訪れています。今日も店内には多くの明るい笑顔があります。　雄也　高校１年

This is a shop in Ouchijuku, in Fukushima. Even after the earthquake, many people visit there and it is full of smiles and laughter.　Yūya, 10th grade, Fukushima



普通にあってあたり前のストーブ。震災の時は使えなくなりました。普通に使えるというのは本当にありがたいことです。僕が飼っている犬も同じく思ってくれたと思います。　秀章　高校１年

I was not able to use this heater for a while after the earthquake. Now it is working again and I am thankful for that.　Hideaki, 10th grade, Fukushima



家の近くに咲いていたたんぽぽの綿毛。周囲に生き生きと輝いている緑と、今にもふわっと舞い上がりそうな綿毛が、震災からの復興を象徴しているようだと感じました。　世里奈　高校１年

Dandelion blooming near my house. The glittering greenery and the cotton wool seems to me like a symbol of the recovery.　Serina, 10th grade, Fukushima



これは仮設住宅の近くにできたプレハブのコンビニです。日本のどこにでもあるコンビニですが、これは仮設住宅に住む方の不便を取りのぞくために建てられたものだと思います。地震や原発で大変ではありますが、不便さを取りのぞくために、多くの人が努力しています。　由愛　高校１年

This is a temporary convenience store, built for the temporary housing area neayby. Although the earthquake and the nuclear crisis are giving those tough times, people are putting a lot of effort into making their lives better and more convenient.
Yūa, 10th grade, Fukushima



この日はかじかむくらいの寒さでしたが、弟は元気に遊んでいました。今では外で普通に遊べますが、震災後４ヶ月くらいは外で遊ぶこともできず、登校時もマスクや長そでで放射能から身体を守らなければなりませんでした。いつか、子どもたちが安心して遊べるように、高校生の僕もできることをやっていきたいと思いました。　比呂　高校１年

This is my brother playing joyfully on a cold day. For some months after the earthquake, we were not able to play outdoors and we had to protect ourselves from radiation wearing long sleeves and masks. I hope the days will come soon, when we can freely play without worries.　Hiro, 10th grade, Fukushima



お兄ちゃんはウルトラマンになりきっています。私たちは、放射能におびえることなく毎日を笑って過ごしています。　詩穂生　高校２年

My older brother is acting to be "Ultra-Man". We are enjoying our lives, without too much fearof radiation.
Shihomi, 11th grade, Fukushima



祖母の食事を準備している祖父。震災直後は神戸へ行き、慣れない場所で４ヶ月を過ごし、８月から郡山に引っ越した。もともと住んでいた大熊町は原発の影響で帰れなくなってしまった。一日でも早く帰りたいと願いながら祖母と２人で暮らしている。　玲奈　高校１年

This is my grandpa cooking for my grandma. They had to move out of their house because of the radiation. They strongly wish to go back there as soon as possible.
Rena, 10th grade, Fukushima

写真部として参加しました ～郡山東高等学校



Participation as a Photography club, Kōriyama Higashi High School

撮影を通じて、現在の福島はまわりの人々が思っているほど沈んではいないということが再認識できました。放射線による風評被害が騒がれていますが、それで福島＝放射能というイメージだけを持つことはやめていただきたく思うと同時に、もっと様々な側面から福島をみてほしいです。　春花さん（１年）

Through the filming I was reminded that Fukushima today is not so down. I want people to erase the image of Fukushima equals radiation and look at Fukushima from a variety of angles.
Haruka, 10th grade

先生の声 Voice from the teacher



写真部顧問　藤井克憲先生

Mr.Fujii, teacher in charge of Photography club

本校では校舎のうち半分が、損傷が激しく使用不可となりました。７月７日までは、特別教室や体育館での学習を強いられました。生徒が楽しみにしていた合唱祭や球技大会なども中止または規模縮小など、精神的にも晴れやかでない１年間でした。そんな中で、余震や見えない放射能のかすかな心配はあるものの、震災前と変わりない元気な生活をし始めている姿をお伝えしたいと考えました。今はその意味の半分くらいしか理解できていないことが、きっと何年か経って振り返った時に、大きな意味をもってくることになると思います。

At the main campus, half of the school building suffered severe damage and was not usable. Choir festivals and ball tournaments had to be cancelled or scaled back. I wanted to show the scenes of gradual return to vivacious normal living in spite of being plagued by anxiety with fears of after-shocks and radiation. When we reflect back after several years, what we have done will come to have a great meaning.



体育館が教室に　Students studied in a gymnasium

ふくしま便り × Sony

郡山東高校写真部の皆さんは、ソニー株式会社からカメラをお借りして今回の投稿に臨みました。これからも福島から世界に向けて発信し続けてほしいと、同社から15台のデジタル一眼レフカメラが贈られることになりました。写真部の皆さん、応援しています！

VOICE

子どもたちの声

七ヶ浜町の「ふるさと子どもゆめ議会」

子どもたちが町長に提言



Children's Conference in Shichigahama, Miyagi prefecture

東北で一番小さな町、宮城県の七ヶ浜町では、町内の５つの小中学校がみずから議会を開催して、自分たちの考えを提案する取り組みが１０年以上続いています。２０１１年、子どもたちは町に対してこんな提案をしました。

In Shichigahama Town, the smallest town in the Tohoku Region, there is a program where the 5 elementary and junior high schools attend the town hall meetings and present their ideas.

亦楽小学校

「笑顔あふれる元気な町へ!」

１０年後のまちづくりを考えたところ、遊園地や水族館、温泉や七ヶ浜の特産品を売る施設などを建てるという意見がでました。防災・減災対策として、施設の周りに防風や防潮林の設置、道路のかさ上げ、海に人工の島を作り、防波堤の役割を果たしてもらうというアイデアも出されました。いつかこの夢プランが実現したら、支援してくださった皆さんを町に招待して楽しんでほしいと思います。

Ekiraku Elementary School: In building the town 10 years from now, there were ideas for building an aquarium and amusement park and creating a center that would sell local specialty goods. Around the center, trees will need to be planted for protection against the tsunami, roads will need to be raised along with other disaster prevention measures. I wish that everyone who supported us will come and enjoy the town.



理想の町を描きました

松ケ浜小学校

「松ケ浜復興プロジェクト」



私たちは３つのことを提案します。一つ目は「松小太鼓」の発表の場を与えていただき、被災者の方々を励ましたいです。二つ目は、私たちが地域の皆さんを招いて行う例年のお祭り「はまかぜ祭り」をもっとアピールして、今度は私たちが皆さんを楽しませる場を作りたいと思います。最後はボランティア活動です。ゴミ拾いや地域の草取りなどに取り組みたいと考えています。

Matsugahama Elementary School: Our plan is to exhibit our region's traditional Taiko drums and to create an opportunity for more people to come to the school's festivals where we can show our appreciation to all for their support until now. We also want to take part in volunteer activities such as cleaning up the town and weeding around the town.

七ヶ浜中学校

「私たちにできること」

ボランティア活動を行うなかで、高齢や病気で給水場所や支援物資の配布場所まで歩けない方が多くいることを知りました。そこで、中学生による防災組織を作ることを考えました。防災組織は地区ごとまたは、避難所に集まった中学生で結成され、避難所運営のお手伝いや、在宅避難者に物資やお水を配ります。また将来はチャリティマラソンを開催し、皆さんの支援に感謝を表したいと思います。

Shichigahama Junior High School: There were many seniors with difficulties in getting to the places where they can get water and relief goods. We came up with the idea of creating a disaster prevention team by junior high school students. This team will be formed by students who gathered at the evacuation site and will help out in the running of the site and distribute goods and water to those taking refuge at home.

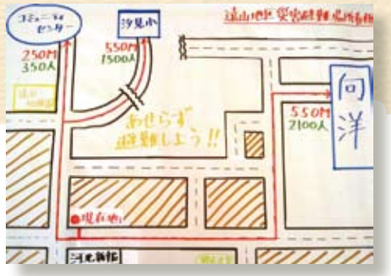


向洋中学校

「避難経路の看板を作ろう」

七ヶ浜は海に囲まれているため、地震と同時に津波を警戒し、早急に避難しなければなりません。そこで私たちは、「災害時の避難経路などを示した看板を作る」ことを提案します。近隣の各避難所の収容人数、避難経路や距離などを看板にして、公民館や商店などに設置してはどうでしょうか。提案が実現した際には、私たちが看板作りを行いたいと思っています。

Kōyō Junior High School: We propose to "Make sign boards showing evacuation routes." How about putting up sign boards showing nearby evacuation facilities, along with their capacity, evacuation routes and distances and place them at community centers and shops? We will take on the job of making the boards.



避難経路を示した看板

俊貴さん　（向洋中学校３年）

Toshiki, 9th grade, Kōyō Junior High School

子どもには斬新なアイデアがあります。「ゆめ議会は」、選挙権のない子どもにとって意見を届けることのできる大切な機会だと思います。

I think that our Children's Conference is an important chance to deliver the opinions of the children who do not have a right to vote.



ゆめ議会について

Voices from Shichigahama



七ヶ浜町教育委員会　飯野直樹さん

Mr.Iino, Board of Education at Shichigahama town

震災を経験した今年は、子どもたちから夢がありながらもたいへん具体的な提案が挙がったことに感銘を受けました。子どもたちが状況を冷静に見ていたことにも驚かされました。

I was deeply impressed that the children, while keeping hold of their dream, could still come up with specific ideas for action.

汐見小学校

「がんばっぺ七ヶ浜～節電編～」



東日本大震災後、町にある火力発電所も運転停止となり、電力不足に関する報道が続きました。そこで、自分たちでできる節電を考えました。特別教室で授業をするときには、誰もいなくなる教室の消灯をこれまで以上に徹底したり、教室のストーブの温度を上げすぎないようにします。また始業前や給食時に教室の蛍光灯を消す「節電タイム」には、全校あげて取り組みたいと考えています。

Siomi Elementary School: After the Great East Japan Earthquake, the thermal power plant located in the town suspended operations and there were concerns about electricity shortages. An idea to combat this was to turn off the electricity in classrooms when there is no one in the rooms and before the beginning of class and at lunchtime. Also, to stop turning up the heating too high.



「ゆめ議会」の後、各クラスの代表児童が集まって話し合いました。「消灯係を作る」、「寒くないように休み時間は外で思い切り遊ぶ」など、「節電タイム」に向けた具体案に学校全体で取り組むことになりました。

Discussion was held among the children after the "Children's Conference" and some specific action plans that can be practiced by the entire school, were decided on, including "appointing persons in charge of turning off the lights" and "play vigorously outside during recesses to keep from being cold."

VOICE

MOVIE 子どもたちの映像



津波で大きな被害を受けた宮城県七ヶ浜。
七ヶ浜中学校生徒会の皆さんは、自分たちの町だけでなく
世界中の人々に災害に備えてほしいと、
自分たちが伝えたいことを映像で表現し、記録しました。

Shichigahama in Miyagi Prefecture is a town devastated by the tsunami. The students of the Shichigahama Junior High School prepared a video because they want, not only their town, but people across the world to be prepared for disasters like tsunami.



「津波が来るとは思わなかった」

"Nobody expected the Tsunami"

「1年前の大津波警報で大きい波は来なかったので油断した」。このタイトルはそう話すメンバーの発案です。鳴り響いたサイレンに、すぐ行動した人、しなかった人。その違いは日頃の避難訓練だと考えました。しかし例年、地域の避難訓練が総合体育大会と重なってきた現実を知り、町全体で行う避難訓練の重要性をうったえます。

I thought whether or not people take action immediately after the emergency siren sounds would be due to day to day evacuation drills. I call on the entire town, including adults and children, to recognize the importance of evacuation drills.



「被災地の記憶〜私たちからのメッセージ」

"Memories from the tsunami-hit area Messages from students"

避難所を体験したこのグループは、そこでの経験をもとに改善策を探ります。公平な物資配給やペットのいる世帯への迅速な対応をうったえるほか、町民が行ったボランティア活動も紹介します。私たちがすべきことは、今回の経験を語りついで今後の防災に活かすことだと話します。

This was created by members who experienced life at the evacuation center. We call for fair distribution of goods and swift responses to be given with families with pets. We must continue speaking of this recent experience and use it in developing future disaster prevention measures.

＊ 映像はプラン・ジャパンのウェブサイト（www.plan-japan.org）でも見られます。
東日本大震災活動報告内の、子どもメディア・プロジェクトをご覧ください。

Videos are available on our website; http://www.youtube.com/user/planjapantv2011jp

▶▶▶映像ができるまで



1 震災当時に感じたことを思い起こしながら、何をテーマにするか映像の専門家と話し合いました。

Discussed the theme with video experts



2 2つのグループに分かれて、盛り込みたい点を書き出して整理しました。

Divided into 2 groups to narrow down the choices of the video theme



3 いよいよ撮影。町の人にインタビューするのも緊張しました！

In the shooting, interviewed the people of the town



4 みる人に伝わるように映像を編集。音楽やナレーションもつけました。

Edited the images and added music and narration

私たちが作りました Voices of the students

機材協力：キヤノン株式会社
技術指導：特定非営利活動法人 OurPlanetTV



明稔さん Akitoshi
編集作業は面白かったです。映像制作という仕事を体験できたことも貴重でした。
To have experienced the job of producing a video was also invaluable.



弘太郎さん Kōtarō
七ヶ浜はあまり知られていないので、この映像で多くの人に知ってもらって続けて応援してほしいです。
Through this short video, I hope more people will come to know about Shichigahama and support us.



光さん Hikaru
スーパーで買い物する人たちにインタビュー中、断られ続けて心が折れそうになりました。
I was heartbroken when shoppers in the supermarket refused to let me interview them.



澄音さん Sumine
マイク電源を入れ忘れ、撮れた映像は無音…。やり直しインタビューは本当に申し訳なかったです。
There were also scenes where I forgot to switch on the power for the microphone and ended up with soundless images.

インドの青年が七ヶ浜にやってきた

A youth from India came to Shichigahama

11歳の時、スマトラ沖地震（2004年12月）による津波で被災したソバーナスさんが2011年9月に来日し、七ヶ浜中学校を訪れました。当時ソバーナスさんも、プラン・インドが実施した映像制作ワークショップに参加し、地域の復興や問題点を伝える映像を制作しています。東京で開催された報告会では、200人を前に壇上から発表しました。

Shobanath visited Shichigahama town. He was 11 years old when he experienced Asian tsunami (December 2004). He also produced a video in 2005 as a part of a Child Media Project by Plan India.



お互いが作った映像を見せ合いました
They shared their own videos with each other.



東京で発表する七ヶ浜中学校生徒会の皆さんとソバーナスさん
They made a presentation in Tokyo.

インドで子どもたちはその時…

After the tsunami struck in India, what did the children do?

津波で弟と祖父を亡くしたソバーナスさん。その後、プラン・インドの協力で近所の子どもたちと「子どもクラブ」を結成し、復興する村を子どもたちが住みやすいところにするべく活動しました。村の防災マップを作成したり、新しく建設される住居のデザインに子どもたちの意見を盛り込んだりしました。

Shobanath lost his brother and grandfather in the tsunami. After that with the assistance of Plan India, he formed a "Children's Club" with neighborhood children and they took actions to make the village more comfortable for the children to live in.



映像「津波の前と後」を制作中のソバーナスさんたち
Shobanath and friends in the process of a video workshop.

子どもクラブのうったえで、遠くなった住宅地と学校を結ぶスクールバスが走りました
Children's club got a School Bus running so that children who had to move far away could still go to school.



VOICE 海外の子どもたちの声

プランの海外の活動地域からも、東北の子どもたちと同じく自分たちの暮らす地域のために活動する子どもたちの声が届きました。日本とは異なる生活の様子が伝わってきます。

from Nicaragua
ニカラグア



バンドを組んでいる弟たちと

サントドミンゴの町で弟たちと弦楽バンドを組んでいます。小さい頃からお父さんにギターを習って教会で演奏していました。僕たちが歌う曲はポップから賛美歌までさまざまです。先日はプラン・ニカラグアのプロジェクトで、若い人たちが正しく「性」とつき合うための方法や、「子どもの権利」を広める歌を作りました。いろいろな人々に出会えて、大切なメッセージを伝えることができます。これが僕たちの活動の原動力です。村の人々も才能を認めてくれて、もっと音楽の道を究めるよう応援してくれますが、僕たちの夢は学ぶだけじゃありません。他の子どもたちに音楽の素晴らしさを伝えることです。　アリエル　14才　ニカラグア

Along with my brothers, we make up the string music group in the community of Santo Domingo. Since we were very young, we learned from our dad to play the guitar and started singing at our church. We make songs for example, a song of a sexual and reproductive health course taken by adolescents through a project fostered by Plan Nicaragua. Through our songs, we transmit messages about our rights. This is what we like the best. The community encourages us to continue learning more about music although our dream goes beyond learning. Our greatest wish is to teach other children music.　Ariel, 14 yrs old, Nicaragua

11月19日は子どもの虐待防止デーです。この日、サマリンガ小学校でスポーツ大会が行われました。スポーツを通して「子どもたちの子ども時代を祝う」ことで親や大人による子どもたちの虐待を防ごうと、プラン・ジンバブエが中心になって企画しました。ジンバブエでは、親の育児放棄や性的な虐待などで、人知れず苦しんでいる子どもたちも少なくありません。今日は、子どもたちとその家族や地域住民が集まって楽しみました。種目は年齢別で、豆を入れた布袋を頭に乗せて走る徒競争や、袋に足を入れてジャンプしながら進むレースのほか、つな引きではみんなの大きな声援で大いに盛り上がりました。「体育の授業では発揮できない才能がたくさん見られるのでぜひ、続けて開いてほしい」と話す保護者もいました。この楽しかったスポーツ大会、本当にありがとうございます。皆さん、私たち子どもを、虐待するのではなく受け入れてください。　タファラ（サマリンガ小学校）、ジンバブエ

November 19th is Child Abuse Prevention Day. On that day a sports day was held at Samariga Elementary School. From the thought of "children celebrating their days as children" contributing to prevent Child abuse, Plan Zimbabwe played a central role in planning the event. In Zimbabwe cases of children suffering quietly from parents abandoning parenting and sexual abuse are not rare. On that day children and their families got together enjoyed a day of games and fun. There were games for all ages and divided by ages. There were sack race, bean bag race, tug of war and so on. We were all grateful that such an enjoyable sport event was held. We encourage you all to "Catch us young but do not abuse us".
Tafara from Samaringa Elementary School, Zimbabwe



お父さん、お母さんの服で借物競走

from Zimbabwe
ジンバブエ

from Indonesia
インドネシア



家の前がゴミ捨て場に

ベロニカさんは家の前にゴミを捨てています。雨が降るとゴミから流れ出た汚水が近所の家の庭にも入ってきます。ゴミ山の水溜りから出た蚊の被害も出始めていました。そこでプラン・インドネシアのヤング・ジャーナリストである私たちは、近所の大人と一緒にベロニカさんと話すことにしました。注意をちゃんと聞き入れてくれるか不安でしたが、ベロニカさん一家は私たちの説明を理解し、ゴミ山を掃除すると約束してくれました。
マリオ　17才、ユニタ　18才　インドネシア

Mrs. Veronika and her family dump garbage in the front yard. When it rains the garbage in that place overflows and the water carries the garbage to residents' front yards located in the lowland. Other neighbor also said that the residents in the vicinity were also attacked by mosquitoes coming from the garbage dump. After the two Young Journalists from Plan Indonesia explain about the dangers of the garbage dump, Mrs. Veronika's family promises to the residents in the surrounding areas to immediately clean up the garbage.　Mario 17 years old, Yunita 18 years old, Indonesia

from Sweden
スウェーデン







学校で男女が平等にあつかわれていない例を挙げてみました。1つめは小学生の時の経験です。クラスで発言が少ないと、先生はいつも「静かな女の子たち」といいました。でも私の記憶では発言の頻度に男女の差はなく、あるのは個人差だけです。2つめは、女子シャワー室で男子による盗撮事件が発覚した時のことです。先生は「男子たちは裸を見られても構わないが女子はそうではない」と言いましたが、私は違うと思います。友だちとシャワーすることが嫌な男子もいるのですから、女子に見られていいはずがありません。逆に男子に裸を見られることがそれほどはずかしくない女子もいるでしょう。国連子どもの権利条約では、男女が同じようにあつかわれるべきと書かれています。先生になる人たちには子どもの権利についてもっと知ってもらうべきだと思います。
トバ　15才、アグネス　16才、アルバ　16才、スウェーデン

Are girls and boys being treated differently by teachers and fellow students? We think yes. Here are two stories. School 1:In our primary school, there were a lot of discussions about how girls should speak up more. But I remember a majority of the girls was just as active as the boys. But the teacher was talking about "quiet girls" instead of "quite persons". School 2: At my school, there were some guys who filmed us girls when we took a shower. At that time, one of the teachers said that boys don't care if anyone sees them naked but that girls are more sensitive. I get so mad at this. There are guys who are uncomfortable showering with other guys. And aren't there girls who are less shy showing themselves naked? Article 2 of the Convention of the Rights of the Child(CRC) clearly says that boys and girls should not be treated differently. So we suggest that teachers should get more education on the CRC when they get their diploma.　Tova 15 years old, Agnes and Alva 16 years old, Sweden

from El Salvador
エルサルバドル



サッカースクールの仲間たち

エルサルバドルでは犯罪を起こす暴力的な「ギャング」が大きな問題になっています。僕たちは毎日、仲間に加わらせようとするギャングから強いプレッシャーを受けながら闘っているのです。ギャングは組織を大きくするために、僕たちを食べ物やお金で釣ろうとするけれど、僕は将来のために何が必要かちゃんと知っているので誘惑に打ち勝つことができます。ギャングになっても、大人になった時に役に立つ知識は得られない。だから僕はプラン・エルサルバドルの「サッカー・スクール」に入りました。僕たちはサッカーを通して規律や努力、がんばれば不可能なことはないということを教わったのです。みんなが強盗じゃなくてスポーツに目を向け、ギャングに入るよりも良いチームメイトをつくることができたら、僕たちはこの国で起こる殺人を減らすことができる、僕たちの地域を平和にすることができると思います。
ハビエル　17才　エルサルバドル

One of the biggest society problems in El Salvador is violence and criminality, which is being constantly feed by gangs. Gangs are criminal and violent antisocial groups that are always looking up to obtain more people into their groups. We feel very vulnerable in the communities, but. I am very clear in what I want for my future. This is why I have joined the "football soccer school projects" by Plan. It teaches me discipline and to push myself as hard as possible to achieve every goal that I want. I am sure that if we all focus in sports instead of robbing, we will help in decreasing the amount of homicides in our country.　Javier, 17 years old, El Salvador

海外からの支援

From all over the world, the people gave us support.

どのくらいの国から日本に支援が寄せられたか知っていますか？
194 の国と地域のうち、日本への支援を申し出たのは 163 の国と地域です（出典：外務省）。
そのなかには途上国と呼ばれる貧しい国々も少なくありません。
プラン・ジャパンにもたくさんの応援メッセージが届きました。その一部をご紹介します。

Of the 194 countries and regions, 163 countries and regions offered their assistance for Japan. Among them were significant numbers of poor countries that we call “developing countries.”

世界中が応援してくれたよ



中国

「日本がんばれ」
Go Japan!



エジプト

「心よりお悔やみ申し上げます。
私たち家族も皆悲しんでいます」
Please accept my sincerest condolences.

ラオス

「WE LOVE JAPAN」



ホンジュラス



「日本の皆さんのことを
毎日神様にお祈りしています」
We pray to God everyday



ボリビア

「日本人を助けたい」
We’d like to help Japanese

ラオスってどんなところ？

Tell us about Laos!

スポーツジャーナリストの増田明美さんに聞いてみよう



ラオスの朝、朝焼けのなかをランニングすると、畑に向かう親子に続き、子豚やヤギの親子とすれ違います。田んぼのあぜ道はニワトリやカモがぞろぞろと行進。人間も動物もみんな一緒に暮らしています。私が訪問したタンパケ村には電気が通っていないため、太陽とともに寝起きします。パジョンちゃん（12才）の家は、かやぶきの屋根と竹の壁、12畳ほどの土間に家族10人が暮らします。家の農業を手伝うために学校を途中でやめてしまう子どもも多いなか、パジョンちゃんは奨学金で小学校を卒業し、中学校にも進学するそう。お母さんはこう言います。「私は字も読めないし農業しかできない。子どもたちには勉強して、いろんな仕事についてほしい。私は一人で畑に出てもいい」。将来は看護師になりたいというパジョンちゃん、学校に行けることを感謝して勉強をがんばっていました。

While jogging in the morning glow, I passed a parent and a child heading for the fields and then I pass piglets and a mother goat with her kids. People and animals, all live together.
In Tanpakhet, a village where Pajon (12 years old) lives, many children drop out of school to help the family with their farming but Pajon finished elementary school, thanks to a scholarship. Her mother says, “I can’t read but I want the children to study and be able to take on different jobs. I can work the fields by myself.” Pajon’s dream for the future is to become a nurse and, thankful that she is able to go to school, she studies hard.





水くみは女の子たちの役割
撮影（ラオス）：鬼室黎

What is Plan?

プラン・ジャパンとは

プラン・ジャパンは、宗教や政治に関係なく、途上国の子どもとともに活動している国際NGO（非政府組織）プランのメンバーです。プランの活動の始まりは1937年。アジア・アフリカ・中南米の50カ国で、子どもの命や健康を守ったり、子どもが学習できる環境を整えたりする活動をしています。また、災害や紛争が生じた地域では、救援物資の支給、緊急医療、避難シェルターの設置などの緊急支援のほか、トラウマ軽減、災害予防システム構築などの長期的視野に立った復興支援も実施しています。

Plan is a nonprofit, nongovernmental organization founded in 1937. It provides assistance for community development involving children in 50 countries in Asia, Africa, and Latin America. In the desaster affected area, not only we provide emergency response but we work on the desaster risk management.



ブルキナファソの子どもたち

東日本大震災でプラン・ジャパンは…

Emergency response in Tohoku

これまでの支援活動は途上国のみでしたが、2011年の震災を受けて初めて国内での支援を実施しました。避難所に支援物資を届けたり、避難所内で子どもたちが安心して遊べるスペースを作りました。学校が再開すると、被災した子どもたちに学校で必要な教材や制服などを提供したり、仮設住宅でお住まいの方々に日用品を届けました。また、子どもメディア・プロジェクトのほか子どもたちと子どもたちを助ける立場にいる人たちの心のケア支援を目的に、アフリカの太鼓を一緒にたたくことで元気になるプログラムや、先生や保護者向けワークショップを実施しました。

Areas of activities up until now had been limited to the developing countries but with the 2011 earthquake we began support activities domestically for the first time. We provided goods to the evacuation centers and created child friendly spaces there. In the psychosocial care program, we provided the drumming session to the children, as well as psychosocial care workshops for the teachers and caregivers.



アフリカの太鼓をたたく子どもたち

2011年3月11日。日本が、世界が、この先記憶し続けることになった東日本大震災。
途上国の子どもたちを支援する国際NGOのプラン・ジャパンは、
宮城県で子どもと子どもを取り巻く人たちのための支援活動を開始しました。
「こんな時だからこそ、子どもたちの声を聴きたい」。
こんな思いから、写真や作文などで子どもたちの声を集めたものがこの「Go ahead～前進～」です。
岩手、宮城、福島、更に関東や海外から200を超える作品が届きました。
東北の「前進」を、日本に、そして世界に伝えたい。そんな想いが詰まっています。







On March 11, 2011 the Great East Japan Earthquake struck. It was an event that will never be forgotten. Plan Japan, a NGO which supports children in developing countries, commenced its activities supporting children and people in Miyagi Prefecture. "It is at such times as this that we want to hear the voices of children." It was with this thought in mind that this Children's Magazine was compiled by the children in tsunami and earthquake affected areas.

Special thanks to

子どもマガジン「Go ahead～前進～」の発行に協力してくれた皆さん

〈協力学校〉

岩手県／盛岡市立北陵中学校

宮城県／石巻市立開北小学校、女川町立女川第二小学校
七ヶ浜町立亦楽小学校、七ヶ浜町立松ケ浜小学校、七ヶ浜町立汐見小学校
七ヶ浜町立七ヶ浜中学校、七ヶ浜町立向洋中学校
尚絅学院高等学校、仙台白百合学園高等学校、仙台市立南光台東中学校
仙台市立虹の丘小学校、仙台市立吉成小学校、多賀城市立多賀城中学校

福島県／郡山市立行健第二小学校、郡山市立郡山第五中学校、郡山東高等学校

千葉県／市川市立大野小学校

〈後援〉

岩手県教育委員会、宮城県教育委員会、福島県教育委員会、仙台市教育委員会
独立行政法人国際協力機構東北支部

〈協力〉

キヤノン株式会社、ソニー株式会社、宮城県七ヶ浜町
Plan China, Plan Egypt, Plan El Salvador, Plan Honduras, Plan India, Plan Indonesia, Plan Laos, Plan Nicaragua, Plan Sweden, Plan Zimbabwe

〈キャラクターイラスト〉　西島尚美

「Go ahead～前進～」はどなたにでもお配りしています（無料）。
ご希望の方は下記までお問合せください。
プラン・ジャパン　コミュニケーション部あて
TEL 03-5481-0030　FAX 03-5481-6200
メール education@plan-japan.org

公益財団法人プラン・ジャパン　Plan Japan
〒154-8545　東京都世田谷区三軒茶屋2-11-22
サンタワーズセンタービル11F
TEL:03-5481-0030 FAX:03-5481-6200
www.plan-japan.org

© Plan Japan 2012